

定期学習会記録

2006/11/18 尾間木公民館

参加者：金子 三浦 橋元 福島 渡辺 安藤 北野

■近代世界史・日本史の学習

○アジアの近代と日本

- ・産業革命後の西欧諸国は、旧アジアにとっての驚異。
- ・西欧諸国の勢力争いから、アジアの変貌をもたらす。

・清帝国(1644-1912)

○産業革命後のアジア

- ・イギリスの蒸気機関車（ワット）と馬の絵。
→産業革命のシンボル。移動手段の変遷。
社会の仕組みを大きく変えた。工場が建ち、農村の人が労働者になった。
- ・資本をもち、労働者を雇う仕組み
→封建社会から、資本主義へ
→子どもの労働。炭坑など。
→のちに、批判する社会主義の出現
- ・綿花がとれるインドは、イギリスの植民地となった。
→現在でも、「アジア」というと「インド」のイメージがあるらしい。
- ・さらに、イギリスは、中国の陶磁器やお茶をほしがった。

・三角貿易

★イギリス〔工業製品〕→インド〔アヘン〕→中国〔茶・絹〕→イギリス

- ・イギリス国内では、工業製品は売れず、赤字。そこで、インドに売る。
- ・イギリス国内では、茶と絹がほしい。しかし、当時のインドはそれがない。
- ・そこで、イギリスは中国から茶と綿を輸入する。
- ・増大する茶の消費に支払いが追いつかなくなり、インドからアヘンを輸出する。
- ・中国はアヘンの密輸を取り締まる。
それに反対して、イギリス国会で9票差で戦争が可決。アヘン戦争が始まる。
(中国は敗北、南京条約)
- ・列強各国の開国圧力で、朝鮮の経済状況は悪化。
農民らの反乱が起き、清国に援軍を求める。
それをきっかけに、日本も出兵。日清戦争が始まる。
※当時反乱はおさまっていたが、日本の策略により戦争となる。

○日清戦争

- 日本は、中国の民間人2000人を虐殺するという事件を起こし、国際的に避難される。
- ・ビゴアの絵
- ・下関条約
日本は、遼東半島と台湾を得るが、ロシア・ドイツ・フランスは、遼東半島の放棄を提案。(三国干渉)
結果、台湾のみを植民地としたが、アジアで最初の植民地を持つ国となり、賠償金で軍備拡大を行うに至る。
→アジアの中での優越感が生じ、朝鮮・中国などに対する偏見をもつ原因となる。

○日露戦争

- ・ロシアと朝鮮のむすびつき
- ・ロシアも満州に兵を駐留。
- ・日本は日英同盟をむすんだあと、日露戦争を始める。
- ・ポーツマス条約

※次回→日露戦争・日韓併合から

●感想（わかったこと、学んだこと、思ったこと…）

- ・中学校で学んだことを思い出すとともに、考えを深められた。
- ・テストのために勉強していたが、社会に出ても必要な知識なのだと感じた。
- ・昔、断片的に得た知識を学び直すことができた。
- ・歴史は知識ではなく、今とつながっていることに価値がある。未来を作るために、心で学ぶ必要がある。
- ・中国や朝鮮の人に対して偏見の感情が生まれてしまった原因は、どこにあるのか再確認できた。
- ・太平洋戦争期の日本の残酷な事件は、明治期からの感情が影響していることを知ることができた。
- ・日清戦争でも日露戦争でも、戦争に反対した人がいる。樋口一葉なども、日露戦争の反対の思いを残している。そういった、人々の思いも読みとる必要があるだろう。

■わくわくフェスタ・準備の報告（北野）

○参加表明団体 11団体 + α

○当会から、ボランティア 2人参加(9:00集合)

○その他会員

12/2(土) 11:00 さいたま市立常盤小 集合・準備

- ・生協の広報 → 一ヶ月前までに寄稿すれば、掲載できる。
- ・ウェルカムキットが具体化。
 - 外国人 119 ネットワーク
 - ・防災関連
- ・パンフレットの作成
- ・プログラムの作成
- ・英語・中国語・タガログ語

○次回準備 11/28(火)10:30～

■お礼状作成

□次回活動予定

12/2(土)

午前：わくわくフェスタ

午後：定期学習会